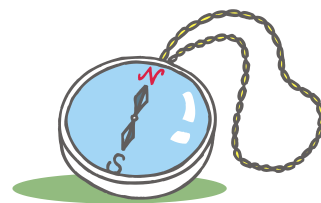


羅 針 盤

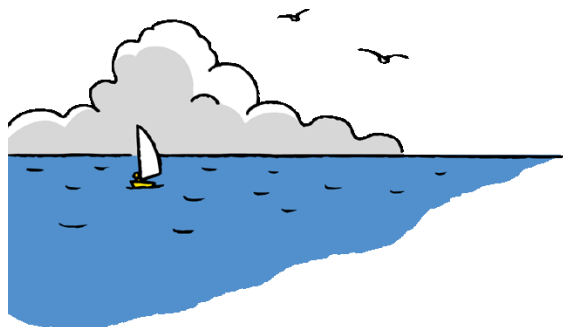
第 **13** 号

令和8年8月26日（水）



◆ 当たり前前（き）のことが当たり前前（き）にできる

地球温暖化が進みゆくことを報道番組を通じて実感しながら、「四季」から「二季」へと日本の季節感が変わりつつあるのではないかと日常の酷暑からは思わずにはられません。さて、39日間という長期間での夏季休業期間（夏休み）を、充実した有意義なものとして過ごすことができたでしょうか。生活リズムを崩すことなく、決まった時間に起き、決まった時間に食事をとり、決まった時間に寝ることができたでしょうか。また、この休業期間に仕上げるべき課題にきちんと取り組むことができたでしょうか。この夏季休業中には、部活動の試合や大会が行われたり、3年生の中には高校のオープンスクールなどに参加した人もいるでしょう。自分自身が立てたこの夏の目標の達成に向けて、努力を惜しまず、頑張りきることはできましたか。頑張れば結果が出る。しかしながら、頑張っても直ぐには結果が出ないこともたくさんあります。焦（あせ）らず、慌（あわ）てず、諦（あきら）めずに、今の自分自身が持つ課題と向き合い、地道な努力を続けることが、一番の近道であると思います。やらなければ何も結果として表れるようなことはありません。日頃から、「当たり前前（き）のことが当たり前前（き）にできる」ということが、何よりも大事なことであると思います。時間を守ることや、忘れ物をしないこと、服装を整えることなど、これらのことはできて当たり前前（き）のことです。当たり前前（き）のことが当たり前前（き）にできる人になってもらいたいと思っています。今日から始まる2学期も、実り多き日々を過ごすことができるよう、生徒の皆さんの活躍を大いに期待しています。



◆ 親しき中（な）にも礼儀あり

生徒の皆さん一人ひとりに自主・自立の確立に向けて心掛けてほしいこととして、『あ・ひ・る』について話をしていますが、その中でも「あいさつ」について、「親しき中（な）にも礼儀あり」という言葉を知っているでしょうか。馴れ馴れしく接することと、親しく接することでは全く意味が違ってきます。学校では、先生と生徒とは同じではありません。家庭では、お父さんやお母さんと君たちとは同じではありません。地域では、お年寄りとは同じではありません。人に不愉快な思いをさせないで、人と人とが尊敬し合いながら、人と人とが信頼関係を築いていくうえで、「礼」はとても大切です。「礼」に始まり、「礼」に終わるといった言葉にもあるように、あいさつは「礼」の基本となるものです。あいさつはお互いの間に好ましい人間関係を育てていくきっかけとなったり、和やかな空気が生まれたりすることもあります。あいさつをしないからといって、特別な場合を除いて日常生活では非難されるようなことはありませんが、あいさつはその人自身の価値を高めるものであるということに間違いはありません。日頃から、お互いに気持ちよくあいさつすることを心掛けていきましょう。あいさつはマナーであり、社会のグローバル化やIT化がどれだけ進んでも、生まれた国や文化が違って、あいさつが「礼」の基本をなしていることに変わりなく、時代は進んでいくはずで